



⑤子どもの遊び場づくりチーム

あそび場をテーマに、子どもたちが主体的にチャレンジできたり、活動できるという視点で話し合いが進みました。アイデアとしては、映像や竹林などを活用した五感を刺激する子どものあそび場づくりやスタンプラリー形式でまちをめぐりながら地域の先輩と出会えるまちの進路相談室、また、子どものやってみたいにみんなで本気でチャレンジする千里ギネスなどが主な方向性です。今後はアイデアを絞りながら、子どもも大人もワクワクする企画に磨いていきます。



⑥子育てしやすくなる場や仕組みづくりチーム

子どもと親、それぞれにとって心地よい時間を提供する場づくりをテーマに話し合いが行われました。短時間預けプログラムとして「はじめてのおつかい」や、長時間預けプログラムとして「お菓子作りと販売体験」を子どもが主体的に楽しめる企画が提案されました。その間、親にとっては子どもから離れて自由に過ごす時間が与えられるだけでなく、情報共有の場やカードゲームを通じてリラックスしながら意見を出し合える機会も設ける案が検討されました。

アンケート結果

1. 本日のワークショップはいかがでしたか？

- ・アイデアが沢山出たのが満足。
- ・千里の財産はやはり人であると今回強く感じた。
- ・様々な意見が聞けてとても学びが深かったです。これからブラッシュアップして企画にしていきたいです。
- ・年代問わず、いい話になったと思います。
- ・目的にあったいろいろな意見が出てよかった。
- ・だんだん面白くなってきた。
- ・アイデアがある程度まとまって企画に収束しそう。
- ・活発な意見交換ができてよかった。
- ・自分の意見を言えて、他人のアイデアも聞いた。 など

2. 各チームの発表のうち関心のあるアイデアやコラボしてみたい取り組みは？

- ・青竹ふみ、千里の竹アピールにはわかりやすく良いと思った。
- ・ティーンの間作り案がとても面白かったです！コラボしてみたいと思った。
- ・イベント全体のつながりを強化できる仕掛けをやはりやってみたい。ロゲイニングやチェックポイントをアレンジしたような形。
- ・子ども(しくみづくり)チームの中・高校生が、小さい子供を見ている間に親がゆっくりできるという取り組み。 など

ネーミングワークショップ&交流会のご案内

3月に開催する社会実験イベントのネーミングを考えるワークショップを開催します！参加型イベントのキャッチコピーづくりのコツを学びながら、みんなでアイデアを話し合います。ワークショップの後は、交流会を実施します。

○日時：1/12(日) 11:00～13:30

○会場：コラボ集会室(午後の活動づくりWS同じ)

スケジュール

- 第1回 活動できそうな場所を見つけよう
10/20⑧ 14:00～16:30
- 第2回 やってみたいアイデアを考えよう
11/24⑧ 14:00～16:30
- 第3回 活動に向けた企画をつくろう①
12/8⑧ 14:00～16:30
- 第4回 活動に向けた企画をつくろう②
1/12⑧ 14:00～16:30
- 第5回 活動の準備をしよう
2/16⑧ 14:00～16:30
- 第6回 社会実験イベント
3/29(雨天時3/30)

今回はここ

発行

豊中市都市計画推進部 都市整備課
北部整備係 (TEL:06-6858-2674)

これから千里 活動づくりワークショップ

第3回

2023年度に発行した、千里アクティビティガイド「これ、せん？」の活動アイデアをもとに、千里中央駅周辺の企業、市民活動団体、地域みなさんが協働して新たな取り組みを生み出していきたいと思います。

そのために地域の活用できそうな場所をフィールドワークしながら見つけ出したり、協働するからこそおもしろくなりそうな活動アイデアを出したり、そのアイデアを企画して実験してみたりする全6回のワークショップを開催します。

企画を考えよう

12/8 ⑧ 14:00～16:30

- 1 はじめに
- 2 前回のふりかえり
- 3 チーム分け&自己紹介
- 4 レクチャー「アイデアから企画へ」
- 5 話し合い&発表
- 6 おわりに



はじめに

第3回のテーマは「企画を考えよう」です。前回のワークショップで出たアイデアをもとに、3月に実施予定の社会実験イベント(以下、「イベント」とする)で取り組んでみたいテーマが同じ人たちと一緒にチームをつくります。その後、企画づくりのレクチャーを挟み、チームのみなさんで企画を考える時間をとる流れになっています。イベントを3月29日(土)・30日(日)と案内していましたが、3月29日を実施日、30日は雨天等による予備日とすることになりました。

前回のふりかえり

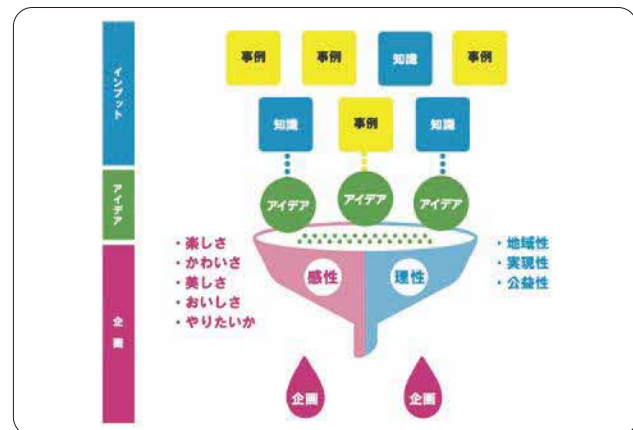
第2回のテーマは「アイデアを考えよう」でした。アイデアを考えるにあたって、まずは同様の取り組みをしている事例を学ぼうということで、泉北ニュータウンの紹介をしました。まちの資源の活かし方やチームのつくり方、ワークショップの進め方などをお伝えしました。その後のワークでは、「自然」「食」「子ども」の3つのテーマに分かれて、千里ニュータウンであったら良いと思う活動アイデアを考えました。





レクチャー 企画からアイデアへ

今回のワークショップでは、3月のチャレンジDAYに向けた企画を考えます。その際、アイデアを企画にするコツについてお話しします。



アイデアとは、企画の前段階にあるものです。この段階では、質にこだわらず量を出すことが重要です。一見くだらないと思えるようなことでも恐れずにアイデアを出すこと、そして仲間は「Yes, and」の姿勢でそれを受け止めることが大切です。時には悪ノリをしても、自由に発想することが求められます。また、アイデアは突然天から降りてくるものではありません。他の取り組みを調べてたくさんインプットすることも必要です。さらに、自分自身が「アイデアキラー」にならないよう注意することも重要です。



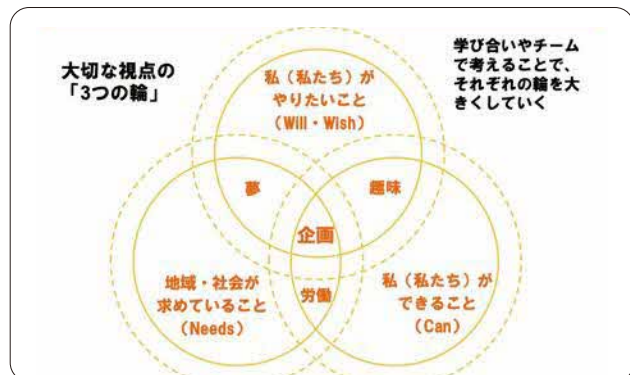
アイデアを出すには、自分が得意な専門分野(コンフォー

チーム分け&自己紹介

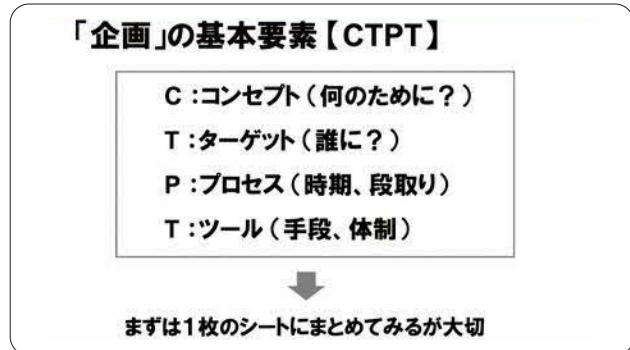
前回出した「自然」「食」「子ども」に関するアイデアを事務局で9つに分類しテーマを設けました。3月のイベントで、自分だったらどのテーマに取り組んでみたいかを考え、6つのチームができました。

- 【自然】**①竹の管理と活用をセットで考える
 ②自然や竹にふれるきっかけづくり**【食】**③
 特産品づくりや情報発信**【子ども】**④ティーン
 のたまり場づくり⑤子どものあそび場づくり
 ⑥子育てしやすくなる場や仕組みづくり

トゾーン)にとどまらず、「その手があったか!」と思えるような新しい発想を得るために、これまでの固定観念やルールを取り払う(ラーニングゾーン)ことも大切です。



最後に、アイデアを企画にまとめる際に重要な視点として、新鮮な感覚を持つことが挙げられます。社会的な課題解決が大切なのはもちろんですが、企画が「本当に自分がやりたいこと」であり、「楽しい」と思えるものかどうかを考えることが大切です。また、チームで連携して実現できるのかも検討しましょう。「やりたいこと」「チームでできること」「社会課題の解決になること」、この3つが重なる部分に良い企画が生まれると言われています。



さらに、CTPTという視点も企画を具体化するのに役立ちます。コンセプトやターゲットを設定し、3月のイベントまでのプロセスを決め、必要な備品を揃えたり、協力をお願いする人や団体を明確にすることが重要です。

話し合い&発表

チームで取り組みたいことについてアイデア出しを行いました。最終的なゴールは、3月のイベントに向けた具体的なアイデアを考えることですが、それだけに焦点を絞ると視野が狭くなりがちです。そのため、まずは自分たちがやりたいことや、ワクワクするようなアイデアを広く出し合うことから始めました。その後、アイデアを企画として具体化する段階で、3月に実現するならどうするかを話し合いました。以下に、各チームの発表内容をご紹介します。



①竹の管理と活用をセットで考えるチーム

ニュータウンができる前から千里の風景を作ってきた竹林を、これからも維持していくためにという視点から話し合いました。千里に暮らす人たちに竹林に触れてもらい、知ってもらうこと、そのためにどのような機会を作っていくかアイデアを出し合いました。青竹踏みや竹のキーホルダー、竹を使った神輿づくりなどの竹を使った工作体験、また竹林での作業体験など、これから千里の竹林の維持管理に関わってくれる人が増えてほしいという思いで多くの意見を出し合いました。



②自然や竹にふれるきっかけづくりチーム

メンバーの一人から「シニアディスコ」についての紹介があり、話が広がりました。この取り組みは福祉事業所などで実施されている企画で、懐かしい音楽を楽しみながら交流するものです。これまで千里では、竹林散策や間伐体験など、竹に触れるきっかけづくりが行われてきたと思いますが、ディスコとの組み合わせはこれまでにない新しい視点であり、新たな層にもアプローチできる可能性があると感じています。また、竹を使った神輿づくりにも挑戦したいという意見も出ました。



③特産品づくりや情報発信チーム

食を通じて千里ニュータウンの魅力を発掘するという視点で話し合いが進みました。食は誰もが参加しやすいテーマであり、ニュータウンというある種独特の生活文化の中で培ってきた食文化を掘り起こし、共有していくことが新たな魅力づくりにつながるのではないかとという仮説も出てきました。イベントではカフェや食堂のような空間をつくって、来場した人たちから食にまつわる様々な情報を得たり、それらをネタに交流が図れるようなプログラムなどのアイデアが出てきました。



④ティーンのとまり場づくりチーム

ティーンエイジャーが自分らしく過ごせる空間について話し合われました。質の高い自習室や漫画・廃材を活用した創作カフェなど、自由に創造的な環境づくりのアイデアが出されました。また、セルシーのステージを活用し近隣の高校生や大学生、社会人と交流できるイベントなど、地域とのつながりを深める提案もありました。さらに、ティーンが主体的にカフェやバルを運営したり、起業やキャリア形成に関する講座を通じて目標を見つける機会を提供する構想も話し合われました。

